

参加無料
一般公開

ジェンダード・イノベーション を通して考える 応用物理の男女共同参画

日時

2022年
3月24日 木 13:30-17:30 (予定)

ハイブリッド開催

脱炭素社会、宇宙空間やメタバースなどを活用する社会に向けて、性の多様性や人種、国籍、年齢、障害などを越えて共創することが増々必要となっている。そして、近年の研究開発においては、研究対象に対するアンコンシャス・バイアスの見直しの一例として、性差を意識・考慮した「ジェンダード・イノベーション」が注目され、研究開発現場の多様性が重要になってきている。

一方、応用物理学は、次世代社会の基幹材料やデバイスなど先端技術開発に深く関わる分野であるにもかかわらず人材が不足し、特に理工系の女性研究者数、理工系を選択する女子学生が依然として極めて少ないという課題を抱えている。主に材料（物性）を相手にする応用物理学においては、性差を意識・考慮した研究開発を直接的に行うことは難しいと考えられるが、次世代材料や新規デバイスの社会実装に向けて性差を意識・理解して研究開発現場の女性比率を向上させ、また多様性を高めることは今後増々重要になると考えられる。

本シンポジウムでは、この「ジェンダード・イノベーション」を切り口に応用物理分野の男女共同参画について考えていきたい。講演では、アンコンシャス・バイアスの払拭やジェンダード・イノベーションが注目されている現在において、まず、研究開発現場の多様化や男女共同参画推進の重要性などについて俯瞰的に講演頂き、続いて自動車、宇宙航空開発、IT分野での性差を意識した開発事例や研究開発現場の多様性への取組等について紹介頂く予定である。**パネルディスカッション**では、これらの講演を踏まえて、応用物理学分野の多様性推進などについて議論する。

● 招待講演者／講演題目 (敬称略・仮題)

山本 佳世子 (日刊工業新聞社) 「イノベーションは多様な個性の掛け合わせから」

竹内 都美子 (マツダ株式会社) 「「自然体」 人を中心としたMX-30開発」

永松 愛子 (宇宙航空研究開発機構) 「多様性とWLBを意識したJAXAの新しい働き方について」

伊藤 貴之 (お茶の水女子大学)

「情報科学業界における人材多様性の必要と女子大学での進路事情」

● パネルディスカッション

司 会：齊藤 公彦 (福島大学・シンポジウム世話人)

パネリスト (予定)：山本 佳代子、竹内 都美子、永松 愛子、伊藤 貴之、為近 恵美 (横浜国立大学)

企画：応用物理学会 男女共同参画委員会